

< 学力調査による生徒の実態 >

教科	全国学力			県学力			市学力			
	3 国語	3 数学	3 英語 <small>3 英語 話すこと</small>	3 理科	2 国語	2 数学	2 英語	1 理科	1 国語	1 数学
全国										
長崎県										
長崎市										
本校										

- ・情報と情報を結び付け、意図に応じて内容を読み取ることができていない。
- ・資料を活用し、条件に合わせて自分の考えを書くことができていない。

< 本校の課題 >

- ・まじめに授業等に取り組むが、基礎・基本の定着が不十分である。
- ・表現力に乏しく、他者に理解や考えを自分の言葉で伝えられない。
- ・自らの課題を見出し、取組を振り返る姿勢が不十分である。

学校教育目標

自分・人・ふるさとを愛し 新たな時代を生き抜く 児童生徒の育成

< 目指す生徒の姿 >

- ・夢や希望を持ち、学習に主体的に取り組むことのできる生徒。
- ・自分の考えや思いを伝えることのできる生徒。
- ・「対話」を通して自分の考えを深めることのできる生徒。

< 検証指標 >

- ①全国・県の学力調査の結果について、平均を下回っている生徒は乖離率を10%以内に、平均を上回っている生徒は平均から30%上回る。
- ②全国・県の学力調査の記述問題の正答数が個人比で前年度を1問上回る。

学校< 全教科等で共通した取組 >

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	家庭・地域との連携
①「めあて・まとめ・振り返り」の徹底。 学習者用端末を活用した授業の振り返り。 ②基礎・基本の定着のために補充学習を設定し、 個に応じた学習支援。学力個人カルテの活用。 Qubenaの活用。 ③知識定着のための方法を各教科で工夫。	①ねらい（条件）に即して自分の考えを書く場面を仕組む。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、プレゼンテーションや対話の場面を仕組む。 ③自主学習（興味に基づく調べ学習）に取り組みせ、相互に評価しあう機会を仕組む。	①視覚的に理解の状況が分かるような工夫。 （個別の支援を必要とする生徒への配慮） ②「達成感」「自己肯定感」を高めることに配慮した課題の設定。 ③家庭学習の推進。 （challengeノート等の活用）	①積極的な情報発信。（学校・保健便り・学級通信の発行） ②家庭での生活習慣の見直し。 （メディアの利用の仕方 ※夜9時以降は通信端末機を保護者に預ける等） ③家庭学習の習慣化。（challengeノート等の活用）

< 各教科等の課題解決に向けた取組 >

< 国語 >	< 社会 >	< 数学 >	< 理科 >	< 英語 >	< 音楽・保体 >
・オンライン辞書やネット検索の活用による、語彙力・情報活用能力の向上。 ・「書く」活動にあてる時間の確保と、内容の充実。 ・授業形態の工夫による対話力の向上。	・板書とワークシートの工夫とまとめプリントを活用した基礎基本の定着 ・各単元や授業ごとの問いの解決を通じた表現する力の育成 ・定期テストの出題予告プリントからの出題により達成感や自己肯定感をもたせる	・問題を解決する際、条件を整理すること、既習事項を想起すること、見通しを立てることを意識づける ・解決の方法や判断の理由を説明する場面の設定 ・個人の課題に応じた学習の進め方の指導（challengeノートやQubena等の活用）	・問題解決型授業の実施と実験方法や考察の妥当性を検討する場面設定（論理的思考力の育成） ・予想や考察場面でのねらいに即した書く活動の充実（表現力の育成） ・知識定着のために、知識と知識のつながりを意識させる指導	・5領域を取り入れた授業の実施 ※目的・場面・状況に応じた表現力の育成 ・基礎・基本の定着（単元テストやスペリングコンテスト） ・readingとlisteningの強化（ICT教材の活用） ・生徒の実態に応じた個別指導（challengeノートの活用）	・基礎・基本の定着 ・技能を得たり、生かしたりしながら「思考・判断・表現」に必要な技能として高めていく指導（習得と活用） ・表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に体を動かしたり、演奏したりして表現を高めていく指導